



SEEDS 英会話スクール



少しでも英語に興味があれば、いつでも気軽にお問い合わせください（2歳から大人まで受講できます）。

代表 JACKSON JOEL RICHARD
（ジャクソン・ジョエル・リッチャード）

広川町大字広川 233-4

☎ 070-8408-0498

（受付時間：月～金 14:00～19:00）

設立 / 令和6年9月

事業内容 / 英会話教室



SEEDS
ホームページ

創業のきっかけ

保育園、小・中学校、大学、塾などで15年間英語を教えていた経験から、日本の英語教育の課題に共感し、英会話教室を開きたいと思いました。特に、小・中学校の教職経験で感じたことは、日本の英語教育では児童生徒が実際に英語を話す機会が少なく、コミュニケーションスキルの向上が十分に図られていないという点です。

そこで、「もっと気軽に英語を使える場を提供したい」「英語を科目ではなく実生活で使えるスキルとして学んでほしい」という願いから開業を決意しました。

創業塾で学んだこと・創業補助金の活用

創業塾では、収支計算や補助金、融資など、創業に必要な幅広い知識を学びました。受講者同士で悩みを共有し、交流を深められたことも貴重な経験でした。

補助金は、各年代別講座の実施に向けて、のぼりやチラシ、教室内の備品や教材などに活用しました。現在は英語教育に加え、日英翻訳業務も行っています。

今後の展望

地域住民との交流イベントや、外国人講師との異文化体験を通じて、実際に英語を使う機会を提供していきます。季節の行事を楽しみながら異文化理解を深める活動を行い、コミュニティの活性化にも貢献したいと考えています。



を届けてください！

広報紙を読んだ感想や今後取り上げてほしい記事、広川町への思い、町に対する質問・意見・提案などをお送りください。イラストや写真も大歓迎です。

問企画課企画係

☎ 0943-32-1196

必須 担当課からの回答を希望するか、希望しないか、以下のいずれかを○で囲んでください

希望する ・ 希望しない

名前（回答を希望する場合は **必須**）
フリガナ

住所（回答を希望する場合は **必須**）
〒 -

電話番号（回答を希望する場合は **必須**）
（ ） -

年齢 **任意**

性別

郵便はがき

〒 834-8790

<受取人>
日本郵便株式会社
広川郵便局私書箱第3号

広川町長 行



今月号の良かった記事とその理由を教えてください

料金受取人払郵便

八女局承認

455

差出有効期限
令和8年7月
24日(切手不要)

戦争体験や証言の継承

～ 戦後 80 回目の夏に「戦争」と「平和」について考える ～

生涯学習課人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

戦後80回目の夏を迎えて

昭和20年の終戦から、今年で80回目の夏を迎えました。戦争を経験した「語り手」世代がいなくなる時代が近づいています。戦争の悲惨さは風化させることなく伝えていかなければなりません。

「対馬丸」を知っていますか？

昭和19年8月21日、沖縄から本土への疎開船として運行していた対馬丸は、児童疎開の児童ら約1800人を乗せ、長崎を目指して那覇港を出港しました。乗客が就寝中の深夜、「ドーン」という爆発音と激しい揺れで、多くの人が飛び起きました。アメリカ軍の潜水艦による魚雷攻撃です。被弾した対馬丸は、わずか10分足らずで沈没してしまい、1484人の尊い命が犠牲となりました。

このような大きな事件がありながらも、軍による情報統制が行われていた時代であり、「対馬丸沈没」について、長い間真相が明らかになりませ

んでした。その後、遺族の努力で事件の記憶を後世に伝えるための活動が進められ、平成16年には「対馬丸記念館」が開館し、さまざまな資料や証言などが展示されています。戦争は人々の生活を根こそぎ破壊し、遺恨や悲しみは終戦後も残ります。このような悲劇は、二度と繰り返してはなりません。戦後80年を迎え、戦争体験者が少なくなる中、今を生きる私たちが戦争の記憶を継承し、その学びを未来につなぐことが重要です。



▲ 広川町立図書館で借りられる「対馬丸」関連の書籍を紹介します。

「あたりまえ」

広川中学校1年(現2年)

山下日菜子

私は今、あたりまえにごはんを食べ、学校に行き、友だちや家族と話し、ゲームをしたり本を読んだりしている。でも、あたりまえだと思っていたことは、本当はすべてがとても幸せだということを知らなかった。

小6のとき、修学旅行で長崎に行った。そこで、原爆被害者の人に昭和20年8月9日、当日何があったのか、詳しく話を聞かせてもらった。小学生だった原爆被害者の池田さんは、原子爆弾によって家族が大けがを負ってしまったそう。ほかにも、ぜいたく禁止があり、髪型や服、日常会話も制限されていた。そして原爆落下後は、食べ物がなく、とても大変だったそうだ。その後は親戚の家に行って働いた。そのとき、親なし子や原子の子と言われ、差別を受けていたと言っていた。

私は池田さんの話を聞いて、家族といっしょにいられるこ

とはあたりまえではないんだなと思った。中学生になり、勉強についていけるか、部活は何に入ろうかなど悩んでいたけど、昔は学校にも行けず、食べものがないなど、もっとつらい悩みをかかえていたんだなと思うと、私の悩んでいることは幸せなことなんだなと思った。私は今まで、この生活をあたりまえだと思っていた。思ってしまった。

あたりまえではなく、とても幸せなことだ。この生活がいつまでも続くといいな私は思う。

世界では、戦争をしている国がある。私たちが学校に行っているときに、だれかが傷ついているかもしれない。日本では戦争について考える活動がある。中学校では、ホールに沖縄での戦争についての資料などを掲示しみんなに知ってもらえるようにしてあった。ほかにもいろいろな活動がある。だから私も、昔のようなことが繰り返されないように、そして今の生活があたりまえでないことを自分ができることで伝えていきたい。

(令和6年度広川町人権作文より)